宝の海から

白浜で出会った生きものたち ㊵

京都大学助教授 久保田 信（京都大学瀬戸臨海実験所）

京大総合博物館で公開講座

「宝の海」大いにPR

6月25日、瀬戸臨海実験所が所属している京都大学フィールド科学教育研究センターと京大総合博物館共催の公開講座の一コマを担当した。この講座は、海・里・森それぞれの専門分野の計5人の講師陣が各週で講演した。20～70歳代までの京都市近郊に在住の老若男女30人余りが熱心に受講してくださった。

筆者は2時間半、紀伊民報に連載中の数々の話題を取り上げ、生命のふるさとである海に生息する海洋生物の多様性と人間とのかかわりについて解説した。

時間配分を多くしたのは専門のクラゲ類だ。誰もが度肝を抜かれる不老不死であるベニクラゲの特徴を紹介して、生命の神秘と人間への適用の可能性にも触れた。

大地震との関連が大いに懸念され、最近、2度テレビ出演する機会のあった深海魚サケガシラにも触れた。今年、白浜の海岸で3度も出現した異例性を紹介し、サケガシラやリュウグウノツカイの出現や漂着の記録が、地震など天変地異との関連性を解明するのに必要な基礎データであることを説いた。

続いて、鯨類を専門にしている院生の岸田拓士さんが南紀に見られるクジラやイルカ類の漂着を中心に説明した。特に南紀西岸には多種が打ち上がるすぐれたポイントである点が強調された。また、近年、西日本に打ち上げられたクジラが新種として世界一流雑誌に掲載されたことも紹介した。

特に、海に見られる数々の多様な独特の生物と瀬戸臨海実験所で伝統的に実施されてきた研究、実験所が出版している欧文報告や、図書室で保管している貴重な文献の意義、教育的な水族館への訪問案内など、ここでの展示品や解説パネルを十分に使用して実験所全体の展示をまんべんなく解説した。

一般のお客さんはどうしても大きなものに目を引かれる傾向があり、展示の中ではやはり樹木とそれに肩を並べるクジラ・イルカの骨格が人気だった。だが、手前みそではあるが、人類の夢であり、老化を知らない『不老不死のベニクラゲ』はそれにもおとらず関心を確かに引いた。

ちょうど今回の担当講座の時に、割りばしを使って森の一部の再生産を実践している割りばし細工師の小池正孝氏が、二枚貝や魚類を作る実演をしており、そのそばには生物たちが、親しみやすい芸術品として生き生きとよみがえっていた。割りばしはなるべく使わない主義にしているが、このような活用には感心した。

◇

同センターは、企画展「森と里と海のつながり―京大フィールド研の挑戦」を今月29日まで京都市左京区の京大総合博物館で開いている。

3カ月間の展示だが、タコ、ハコフグ、サケ、カニなどいろいろな海の生物たちが、親しみやすい芸術品として生き生きとよみがえっていた。割りばしはなるべく使わない主義にしているが、このような活用には感心した。

◇

同センターは、企画展「森と里と海のつながり―京大フィールド研の挑戦」を今月29日まで京都市左京区の京大総合博物館で開いている。

3カ月間の展示だが、より森と里と海の連環を意識した展示・解説パネルなどを博物館2階で紹介している。

この企画展の図録も発刊されており、京都大学総合博物館／京都大学フィールド科学教育研究センター編集・発行（大伸社印刷）の191ページからなるカラー図表をふんだんに使用したもので、一部2000円で購入できる。京大総合博物館の売店で販売中だ。

この企画展に関連した講演会が、最近、2度あった。1回目は7月17日で、C・W・ニコル氏（ニコル・アファンの森財団理事長）の「森を築いて海を思う」。日本の心を愛し、科学力も技術も能力もある日本を見込んで、黒姫高原に手づくりで広々とした明るい森を育て上げた実績などをベースに話された。なお、ニコル氏は太地町に1年ほど住んでクジラ類の研究資料などを集め、捕鯨に関する一言を持っておられるのは周知である。

24日には同センターの田中克センター長と串本町の大島実験所の梅本信也助手、外部関係者の畠山重篤氏（牡蠣の森を育てる会代表）、寺島紘士氏（SOF海洋政策研究所長）、安田喜憲氏（国際日本文化研究センター教授）の5人が『心に森を築く』を副題に講演した。

どの講演会にも多くの団体が訪れ、その中には、ツアーバスを繰り出すような瀬戸臨海実験所がお世話したアメリカの高校生たちとその姉妹校である田辺商業高校の生徒と先生、田辺市の中学生と先生を含む40人余りの姿もあった。

他の企画として、レクチャー・ガイドが博物館で当センター諸教員によって次々となされており、森・里・海に関するさまざまな話題を午前と午後に直接出向いて解説されているので、詳細を当センターホームページをご覧の上参加されるとよい。

公開講座で多彩な海洋生物を説明する久保田信・助教授（中央）

京大フィールド研企画展瀬戸臨海実験所コーナーに設置された各種解説パネル、標本、蔵書

京大フィールド研企画展の看板（京大総合博物館2F）